今日のイラスト 587　「 イラストでたどる石州街道⑫杖坂 」　　古谷眞之助

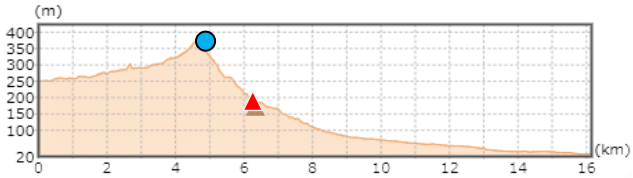
イラストでたどる石州街道 12

杖坂

国道9号線、木戸山隧道手前の谷間に家屋数軒の杖坂集落はある。これまで津和野方向に歩いてきているが、イラストは逆に山口に向かうシーンであることにご注意願いたい。登場人物は三人とも語り部仲間で、第二次石州街道研修の際に篠目駅から山口駅まで歩いた時の写真を元にしているためである。

それはさておき、背後の集落付近には石畳が僅かに残っているので、通過する際には是非見ておきたい。また、ここに一里塚もあったと伝わるが、現在は不明である。長州藩の地誌「地下上申」には「難所のため杖の助けが必要だったので杖坂と呼ばれた」と記載されている。事実、ここから街道一の難所、大峠まで標高差170㍍の急坂が続く。

文・イラスト＝古谷眞之助



石州街道シリーズも 36 回連載の予定なので、1/3 が済んだことになる。あと 24 回の内、6 回分はすでにイラストを先行させて完成しているから、残り 18 回分が今年の春からの課題で、4 月には石州街道の専門家に、残っている篠目～徳佐を案内していただくことになっている。その後は NPO あとうのガイドさんにお願いしようと思っている。萩往還と違って石州街道は、まだお客様を案内した経験がない。聞くところによると、すでに大都市ではインバウンドも着実に増加しているとのことだが、まだ、山口県にまでは効果が十分に及んでいないというのが、ガイドとしての実感である。これまで小郡（ 新山口 ）～篠目までは語り部のガイド研修で何回か歩いており、また、語り部の会の公式パンフレットも完成済みだし、個人的なガイド用の資料も完成させているのだが、さぁ、これからという時にコロナ禍となってしまった次第。そんなわけで、18 回目まではガイド研修時の写真や配布資料、県立図書館の文献を基にするしかない。今回のイラストも、本文でも断っているように、このシリーズは小郡（ 新山口 ）から進めているのに、今回のイラストは逆方向に向かっているシーン。もちろんそれは研修のコースが篠目から山口方面に歩いたからだった。イラストに人物を登場させたのは、萩往還では確か 3 回、石州街道では初めてのことである。少し雰囲気が変わって悪くないと思っているのだが、如何だろうか。この 3 名は、2 年前の石州街道研修（ 篠目駅→山口駅 ）に参加した語り部の会のメンバーである。

さて、コース断面図（ 右端が小郡 ）を見て欲しい。杖坂集落は、宮野から杖坂川沿いの谷を詰めて行って、国道 9 号線・木戸山隧道の入口から 1 キロ程度下ったところにある（ 赤▲ ）。集落の標高は 203m で、出発点の小郡からはちょうど高度差 200mとなるが、ここからは石州街道で最も高い大峠（ 青●標高 370m ）まで、標高差 170m の急な上りとなる。不思議なもので、この断面図は、防府・三田尻から山口を経由して萩往還一の難所板堂峠（ 標高 537m ）を越えていく際の断面図に非常によく似ている。ともあれ、次回このシリーズをお届けする頃には長門峡～徳佐までの石州街道を歩いているはずである。（ 2023.3.12 記 ）